

言 寸 言 義

土木學會誌 第十三卷第三號 昭和二年六月

砂濱に於ける港灣修築と漂砂との

關係に就て (第十二卷第六號
所 載)

會員 工學博士 廣 井 勇

本會誌第十二卷第六號所載荒木博士の寄稿に係はる漂砂に關する論文は砂濱に於ける築港工事に至大の關係を有するものにして、由來本件に關する學説は多くは机上の想觀に基けるものなりしに著者は長年月に亘り施したる精確なる調査觀測の結果に基き立論し漂砂の性に就き究むる處ありたるは斯學に於ける一大貢獻なりとす。

著者の所論中砂^{サンドリツヂ}畦の成立及び移動に關する觀測の結果は最も興味あるものにして是に就ては確に從來の知識を一新する處ありとす、而て砂濱に於ける築港工事埋没の原因は著者の説の如く主として砂畦の動作にあるべしと雖も、マドラス港に於ける堆砂の如きは尙外に砂^{ビーチ}流なるものによる處あるべし、或は之も亦砂畦の一種なりとせんか。

岩内港に關する記事中風速と波高の關係に就ては全地開敞の度より計るときは波高低きに失せり、恐らくは陸地に近き所に於て觀測したる結果に據れるものならん。函館港に於ける同種の觀測は稍陸地を去りたる所に於て施せるものゝ如し。